

【新任教員紹介】



健康スポーツ学科
新野 弘美
(准教授)

今年度より着任いたしました新野弘美です。生まれも育ちも大阪です。本学（亀岡キャンパス）の立地環境に癒され、快活な学生さん達との関りの中で、研究と教育の両輪にて邁進する所存です。研究キーワードは、健康教育、ストレッチング、抗動脈硬化、加齢・老化です。特に「健康教育」をキーワードに多様なエクササイズを検証をしています。どのようなエクササイズをどれだけすると、どのような影響があるかを対象者、種目、頻度、強度、時間等を検討し、情報発信ができるようにしています。現在、特に注目をしているのはストレッチングです。柔軟性はもちろんのこと血管も柔らかくなり、抗動脈硬化のエクササイズとしての有効性を研究しています。授業は健康運動関連科目を担当しています。本学から沢山の健康運動指導現場での担い手を輩出してまいります。亀岡歴は、まだ半年です。よろしくお願い申し上げます。



健康スポーツ学科
濱中 良
(講師)

健康スポーツ学科の濱中^{はまなか} 良^{りょう}と申します。専門科目としては、障害者スポーツ論・障害者スポーツレクリエーション実習・陸上競技を担当しています。ウエディングプランナーや消防士、高専教員等々を経て今年着任しました。スポーツは中学から15年程、陸上競技の三段跳をしており、大学院では三段跳の地面反力を測ったり、自分が得たコツを可視化したりと三段跳の研究をしていました。その後、高専で体育教員をしていた際に、体育の得意不得意・障害のあるなしに関わらず「全員が楽しめる体育授業はどうやったらできるのか」と興味をもちました。試しに障害者スポーツ（アダプテッド・スポーツ）を体育授業に取り入れてみたところ、想像以上の学生の反応や教育効果がありました。その経験から現在では、アダプテッド・スポーツをテーマに研究をしています。教員として研究者として未熟なところが多々ございますが何卒よろしくお願いいたします。



言語聴覚学科
古田 功士
(講師)

私は言語聴覚士としての臨床を経験しながら、いろいろなご縁から京都や大阪などの言語聴覚士養成校の非常勤講師として音声学や言語学などの講義を担当して参りました。そのおかげで臨床と学問の双方向から人が話すことについて学びを深めて参りました。

私がかもっとも興味を持っている分野は、日本語の音声とその発音のメカニズムについてです。私たちは自分が話したい想いを言葉として形作り、それに関連付けられた日本語の音声の知識に照応して、クチやノドなどを動かすことで特異な音波として発音します。聞き手は聴覚を通じてその音波をしっかりと捉えて大脳へ送り、ことばとしての処理機構を経て聞き手は話し手の想いを認識します。私はこの一連の流れについて従来の研究を俯瞰しつつ、特に学際的に視野を広げることで、話すことに困難を感じている方々のお役に立ちたいと考えております。どうぞよろしくお願い致します。



看護学科

平野 加代子
(准教授)

2023年4月1日付で健康医療学部看護学科の基礎看護学領域に着任いたしました。よろしくお願いいたします。

私は、看護師免許を取得したあと、臨床経験を経て助産学専攻科に進学し、臨床経験や看護専門学校および大学での看護教育に携わり、現在に至ります。授業では、臨床経験を授業に活かし、「共に学び成長できる」ことを考えています。何よりも育っていく姿を見られることを楽しみに関わっています。

看護技術教育に関すること、教育方法に関することをテーマに研究をしてきました。研究成果を教育に活かしていきたいと思っています。

趣味は神社やお寺をめぐることです。よろしくお願いいたします



看護学科

石上 早苗
(准教授)

保健師教育に携わり11年目を迎えました。Covid-19以降、保健師はとても注目されるトレンドな職種となり、全ての人々が健康で健やかに暮らすための公衆衛生看護の魅力が伝えられるように日々研鑽中です。

主な研究テーマは、健康危機管理と保健師技能の向上です。東日本大震災の保健師の活動経験から、減災（災害で怪我をしたり亡くなる人の数を減らす）の為にどのような準備をすれば良いのか、災害弱者を守る仕組みづくりについて自治体と協働しながら研究をしています。

出身は京都に並ぶお茶処の静岡県です。初の県外脱出をして、今年の4月から京都の地に暮らし始めました。休みの日には、趣味の神社仏閣巡りと御朱印集めを楽しんでいます。